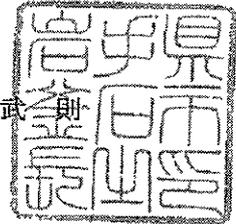


釜建収第402号  
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

釜石市長 野田 武



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付国道企第37号をもって依頼のありました標記について、下記のとおり提出いたしますので、よろしくお取り計らいください。

記

1. 提出書類

- (1) 様式1 「道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など」 1部
- (2) 様式2 「地域の現状と抱える課題」 1部
- (3) 様式3 「地域の目指すべき将来像」 1部
- (4) 様式4 「道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）」 1部
- (5) 資料 1部

◎連絡先：建設部建設課高規格幹線道路対策室  
係長 佐々木  
電話：(0193)22-2111  
FAX：(0193)22-6040  
mail：[sasaki1404@city.kamaishi.iwate.jp](mailto:sasaki1404@city.kamaishi.iwate.jp)

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岩手県釜石市

道路は、物流の効率化による産業の振興、いのちを守る救急医療体制の構築、災害時の避難道路機能、広域市町村との交流・連携など地方の自立的発展に大きく寄与する社会資本であります。

このことから、地方の発展のため、以下のことについて要望並びに提案をいたします。

○地方における高規格幹線道路は、その多くが未だに未整備であることから、道路特定財源の一般財源化にあたり、多くの予算を道路建設に充てていただきたい。

○高速道路網の整備について、過度に費用対効果を追求するのではなく、地域の活性化、地域格差の解消を考慮し、より多くの指標により、整備路線を決定していただきたい。

昭和32年に公布された「国土開発縦貫自動車道建設法」（現：国土開発幹線自動車道建設法）の最大の目的は、「新たな高速自動車交通網を完成することにより、従来他のいかなる手段によっても達成することができなかった国土の普遍的開発、画期的な産業の立地振興及び国民生活領域の拡大を図る」こととされている。

国の政策により、地方の発展を図るという観点から道路整備を推進していただきたい。

○高規格幹線道路のみならず、地方における生活道路について、既存道路ストックの高齢化、頻発する大地震や今後高い確率で発生するとされる大地震に対応するための橋梁等の耐震化、歩車道の区分のない通学路の整備などが求められている。

この地方道路の整備のために活用されている「地方道路整備臨時交付金制度」並びに「地方道路整備臨時貸付金制度」の存続を図っていただきたい。

○道路の建設や維持管理に係るコストなどを考慮し、設備・建設工法、複数車線の必要性などについて徹底的な効率化を図り、より多くの道路ネットワークの完成を急ぐべきである。

②-1 地域の現状と抱える課題

岩手県釜石市

○現状

①釜石港のリサイクルポートの指定、地域再生計画の認定及びかまいしエコタウンプランの承認を得て、環境関連産業の創出に向けた取組みを推進した結果、岩手オートリサイクルセンターや日本最大級の風力発電が操業するなど雇用の場の創出が図られ、活力有る産業が展開するまちに向けた基盤が整いつつあるが、さらなる取組みが求められている。

②本年、岩手県内陸部において2度の大地震が発生しており、当地域においても近い将来、宮城県沖地震・津波の発生が予測されている。

釜石港湾口防波堤の概成により、防災基盤は整いつつあるが、市民が安心・安全に生活できるよう、さらなる基盤整備が必要とされている。

○課題

①さらなる企業立地や産業集積、観光産業の振興を図り、雇用の場を創出し、地域を活性化する必要がある。

そのためには、物流の効率化や交流人口の増加を促進するため、東北横断自動車道釜石秋田線や三陸縦貫自動車道などの高規格幹線道路の整備が求められている。

また、釜石港を最大限に活用し、雇用の増加を図る上でも高規格幹線道路の整備が求められているところである。

②災害に強いまちを構築するためには、釜石港湾口防波堤のほか、市民が迅速に避難することができるよう、また、救援物資を円滑に輸送することができるよう、災害に強い高規格幹線道路の整備が求められている。

現在、三陸沿岸の幹線道路は国道45号一本のみであり、今後、発生が想定される津波災害により、釜石市内7箇所において本道路が寸断されると予測されており、その対策が求められている。

また、防災対策の他、医療面においても、拠点病院への迅速な搬送が課題となっている。

併せて、市道の整備や補修、橋の耐震化等が不十分であることから、これらを整備することにより、市民に安心・安全な生活をもたらすことが可能となる。

当市では、市道総延長508,405kmでその舗装率は53.9%、15m以上の橋梁については市内79箇所のうち、耐震化済橋梁は6箇所、耐震化率は7.6%であるなど生活道路の整備率の低さが課題となっている。

その他、国道45号寺前交差点、片岸交差点について、交通渋滞や降雨時の冠水などにより、産業振興・市民生活に大きな支障を来している。

②-2 地域の目指すべき将来像

岩手県釜石市

東北横断自動車道釜石秋田線並びに三陸縦貫自動車道が全線開通することにより、自動車産業や先端技術産業が集積する北上地域や花巻空港、さらには日本海側の玄関口である秋田港や秋田空港を有する秋田市、東北の拠点都市である仙台市と、釜石港を中心とした三陸地域が短時間で結ばれることになる。

これらの高規格幹線道路は、物流の効率化による産業振興、地域間交流、防災ネットワークの形成、救急医療における地域間連携を促進し、三陸地域全体に大きな発展をもたらす。

本路線の整備により、当市においては企業誘致が進めやすくなるとともに、地場企業においても広域的な企業間の交流・連携を促進し、研究開発や新事業の創出、企業間取引の拡大が図られ、当市の特色であるものづくりを中心とした産業の振興が図られる。

また、各拠点都市や産業集積地、港湾、空港と連絡されることで、東北で唯一24時間操業可能な重要港湾であり、県内唯一の総合静脈物流拠点港である釜石港は、その機能を最大限に発揮することが可能となり、関東自動車工業で製造される完成自動車の北米へのダイレクト輸送が可能となる。

その他、観光ルートが整備されることで、年間150万人、ひいては200万人の観光客の流入を見込むことが可能となり、水産業においても流通ルートの整備により、本路線を活用した新たな流通システムの構築や販路拡大を図ることが可能となる。

太平洋と日本海を結ぶ東北横断自動車道釜石秋田線と三陸縦貫自動車道の結節点である釜石市は、北東北の産業と経済発展の一翼を担う拠点都市となることを目指す。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

岩手県釜石市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
<p>①地域活力の向上</p>	<p>①東北横断自動車道釜石秋田線並びに三陸縦貫自動車道と釜石港を活用した産業振興</p>	<p>○期待する効果や評価等</p> <p>①岩手県金ヶ崎町の関東自動車工業と、宮城県大衡村に立地が決定しているセントラル自動車により、年間生産台数が50万台規模になるとされている。これにより、これまで主に仙台港から搬出されていた完成自動車について、仙台港のみでは対応が不可能となる。東北横断自動車道釜石秋田線の開通により、自動車の積出港として釜石港が活用されることになれば、産業振興と地域経済の活性化に大きな影響を及ぼす。</p> <p>当市では、三陸縦貫自動車道「釜石山田道路」起工式、仙人峠道路開通という道路効果により、雇用1,000人規模の企業立地が決定している。</p> <p>また、釜石港においては、内航フィーダーコンテナ・トライアル事業を実施してきたが、耐震強化岸壁に改修された公共埠頭に大型クレーンを設置し、第3セクターが運営する形で、定期航路開設に向けた取り組みを進めている。</p> <p>東北横断自動車道釜石秋田線並びに三陸縦貫自動車道が整備され、釜石港と有機的に連携することにより、物流の効率化と産業集積が進み、当市のみならず、三陸沿岸地域の発展に大きく貢献する。</p>	<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>釜石港の利活用が活発になれば、税関等の関連機関が釜石市に設置される。</li> <li>自動車部品の関連企業の立地が実現する。</li> </ul>



# 釜石市の高規格幹線道路の状況



## 釜石市の道路状況

- ☆ 三陸沿岸の幹線道路は国道45号1本のみ
- ☆ リアス式海岸特有の地形から、道路は線形不良で急勾配・急カーブの連続
- ☆ 三陸縦貫自動車道の進捗は計画延長約224kmに対し、供用区間は約82km (進捗率37%)。岩手県区間は延長103kmに対し、供用25km、進捗率24%
- ☆ 東北横断自動車道釜石秋田線東和遠野間が新直轄方式で整備されているが、進捗率は事業費ベースで、東和宮守間36%、宮守遠野間7%

- 物流が非効率であることから、企業誘致が進まない
- 観光客が三陸沿岸の観光スポットにアクセスしにくい
- 近隣市町村との交流連携を阻害
- 拠点病院へのアクセスに時間が掛かる
- 津波災害時に36箇所が寸断されると予想される国道45号は避難や救助活動に支障あり

地域経済は活性化されず、常に病気と災害の不安を抱えた生活

## 東北横断自動車道並びに三陸縦貫自動車道が整備されると・・・

### 1. 地域経済が活性化します！

- 物流の効率化が進み、企業の進出が図られやすくなります

仙人峠道路の開通により、**雇用 1 千人規模の企業立地が決定**

東北横断自動車道釜石秋田線並びに三陸縦貫自動車道が開通すると、

近隣の大槌町、山田町、大船渡市から、さらには仙人峠道路を活用し、住田町や遠野市からも釜石市の誘致企業に通勤可能となり、地域で企業を支える体制が構築されます。



(造成が進む立地予定地)

- 観光客が当地域に短時間でアクセス可能に！

仙人峠道路の開通により、7年ぶりに釜石市の観光客入込数が100万人を突破

東北横断自動車道釜石秋田線並びに三陸縦貫自動車道が開通すると、

**観光客の入込数 200 万人が実現可能**



(釜石よいさ)



(まるごと味覚フェスティバル)

## 東北横断自動車道並びに三陸縦貫自動車道が整備されると・・・

### 2. 安心・安全に生活できます！

- 産婦人科医に短時間でアクセス可能に

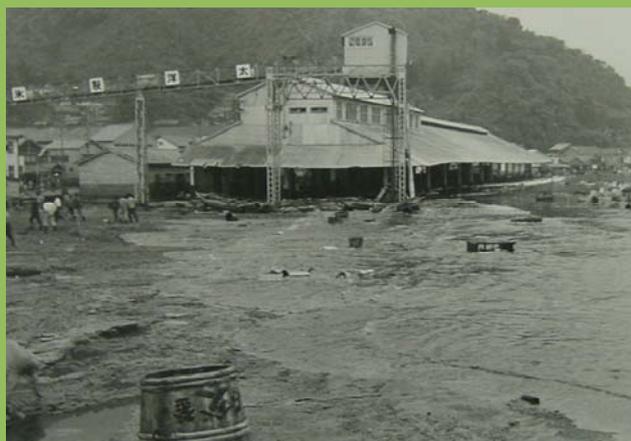
三陸縦貫自動車道が開通すると、産婦人科医が集約された岩手県立大船渡病院に釜石市、大槌町、山田町からも短時間で安全に通院可能となり、医師不足に対応できます。

さらに東北横断自動車道釜石秋田線と三陸縦貫自動車道を活用し、遠野市からも通院可能となります。

- 津波災害時に迅速な避難、救命活動が可能に

三陸縦貫自動車道が開通すると津波による寸断がなく、避難・救命活動を迅速に行うことが可能になります。

また、内陸部において積雪や地震災害など有事の際に、東北横断自動車道釜石秋田線並びに三陸縦貫自動車道は、東北縦貫自動車道の代替路・迂回路としての役割を果たします。



昭和 35 年チリ地震津波



昭和 43 年十勝沖地震津波



昭和 43 年十勝沖地震津波

津波により完全に冠水した道路…

## 東北横断自動車道並びに三陸縦貫自動車道が整備されると・・・

### 3. さらに釜石港の利活用が進みます

仙人峠道路の開通により、岩手県内陸部の完成自動車組立工場の釜石港からの

完成自動車の積み出しが13%増加しました。

東北横断自動車道釜石秋田線釜石花巻間が開通すると、

完成自動車の釜石港からの積み出しを倍増させることが可能になります。

さらには、湾口防波堤が整備され、水深の深い釜石港を活用し、

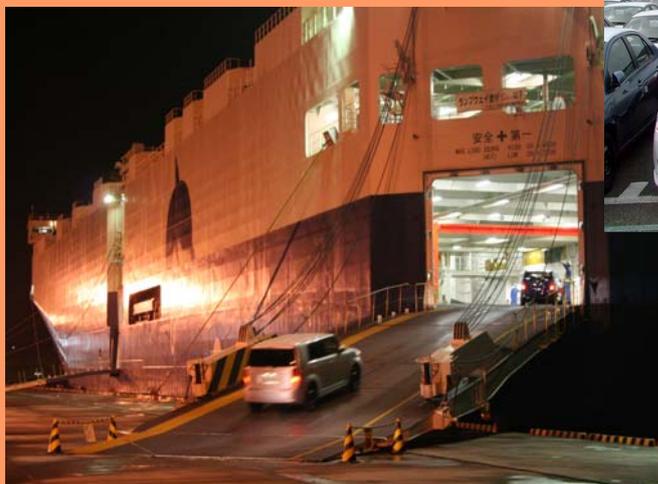
北米向けの積み出しが可能に。

もちろん、アクセス向上により、観光客数もさらに増加。



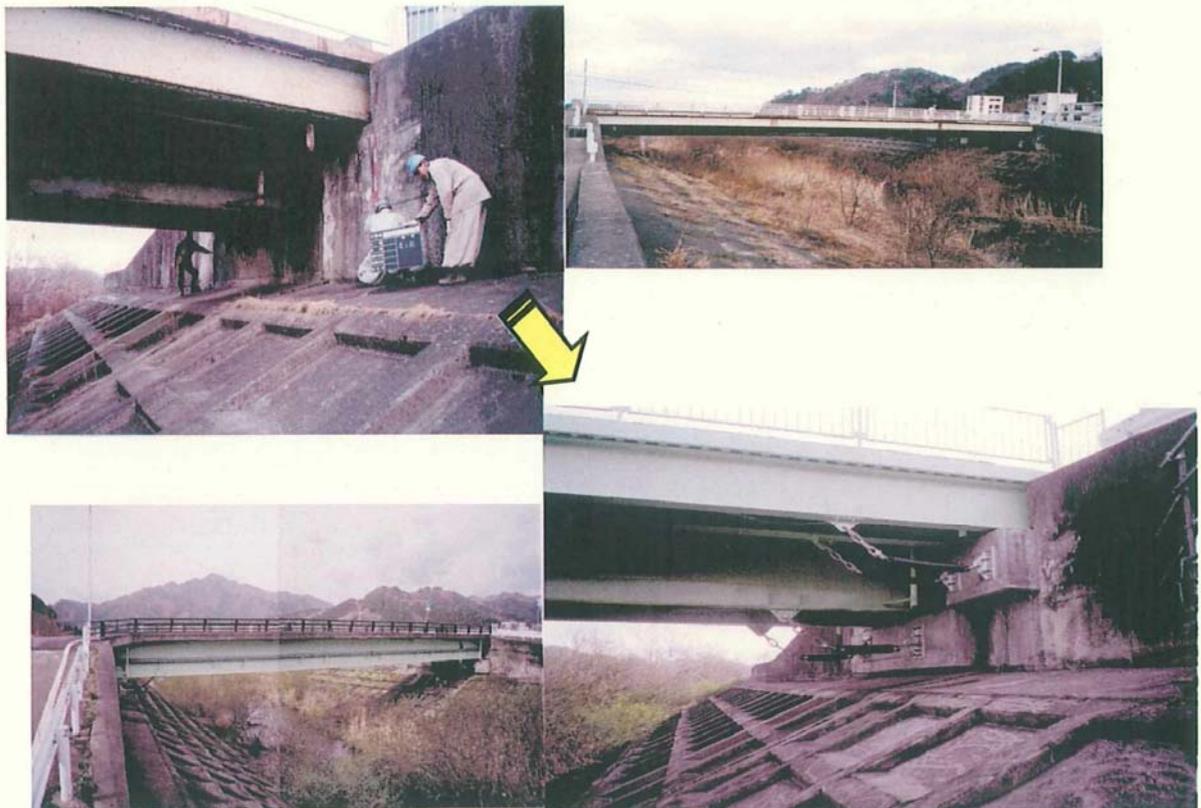
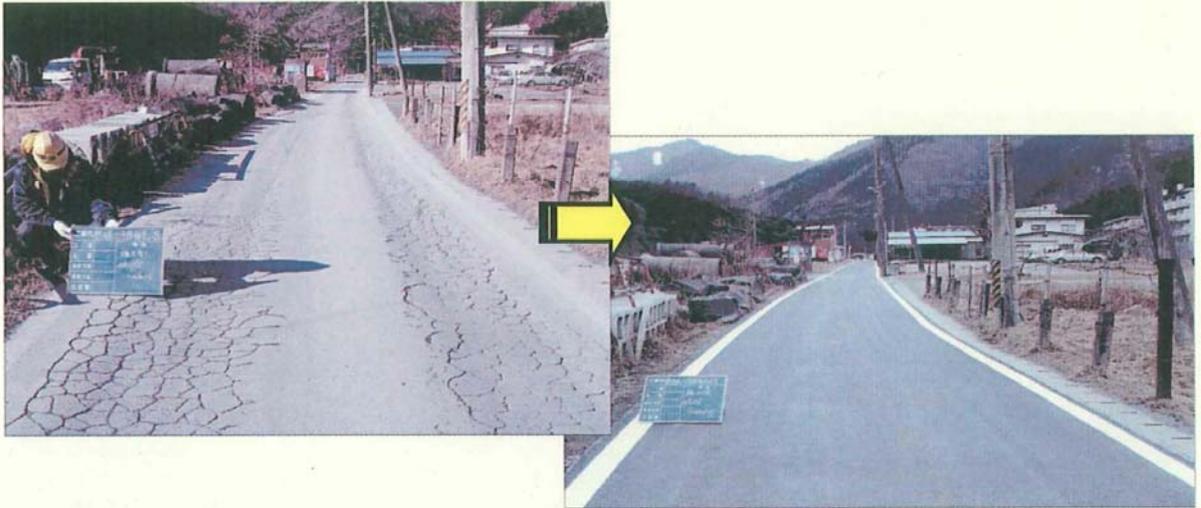
釜石港における完成自動車の搬入・搬出作業

港湾利用が拡大すれば、地元雇用も確保されます！



「地方道路整備臨時交付金」並びに「地方道路整備臨時貸付金」制度が存続しなければ、市町村の道路の維持・補修、橋の補強が出来ません！

(地方道路整備臨時交付金を活用した工事)



## 沿岸で唯一の幹線道路である国道45号寺前交差点

変則交差点である上、交通渋滞と降雨時の冠水がひどく、市民生活に支障を来  
たしています。

